

入局後 1 年経過して

松村武史

2023 年度より入局しました松村武史と申します。入局後 1 年経過しましたので振り返ってみたいと思います。

私は初期研修終了後に入局した通常のパターンではなく、内科から放射線科に転科の後、放射線診断専門医を取得しました。専門医取得後は核医学を専門とするため、日本の核医学の中心である金沢大学核医学診療科に入局させていただき、同時に大学院に進学しました。

私が核医学を専門にしようと思った理由は、画像診断を学んでいく過程で、CT や MRI は組織の形態や性質に基づいて診断を行います。核医学は組織の細胞機能を画像化して診断を行うということに興味を持ったからです。また、核医学治療の分野では、新規薬剤の開発が進んでおり、放射性核種を変えることによって診断から治療を一連の流れで行う“theranostics”という言葉が最近使われています。組織に選択的に結合する物質を変えれば様々な腫瘍に対して核医学治療を行える可能性があり、将来的にも発展していく分野だと非常に興味を持ち、研究にも携わりたと思いました。

医局は私と年代が近い先生が多いということもありますが、わからないことがあっても何でも相談しやすく、話しやすい雰囲気です。

大学病院での 1 日の流れとしては、午前中は当日検査の RI 注射、心負荷などの検査担当、超音波検査、病棟業務を行い、午後は読影や病棟業務、あるいは外勤ということが多いです。病棟業務については、入局してからの 1 年間は上級医の先生と一緒に患者さんを担当しますので、相談しやすい体制でした。

大学院は日中にある対面の授業に出席することは難しいですが、夕方にある授業に出席したり、e-learning があれば受講しています。

今後核医学は、特に治療分野において発展が見込まれる分野ですが、それを専門とする人材が不足している現状があります。もし核医学に興味を持たれましたら、ぜひ見学に来ていただきたいと思います。